愛媛県立中央病院

内科専門研修プログラム冊子



2026 年 5 月作成

目次

1 理念・使命・特性 1
専門研修後の成果【整備基準 3】 2
2 募集専攻医数【整備基準 27】 3
3 専門知識・専門技能とは 3
4 専門知識・専門技能の習得計画 4
5 リサーチマインドの養成計画【整備基準 6、12、30】 7
6 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】 7
7 医師としての倫理性、社会性等【整備基準 7】 7
8 地域医療における施設群の役割【整備基準 11、28】 8
9 地域医療に関する研修計画【整備基準 28、29】 8
10 専攻医研修モデル【整備基準 16】 9
11 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17、19 ～ 22】 11
12 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34、35、37～39】(「愛媛県立中央病院内科専門研修管理員会」参照) 12
13 プログラムとしての指導者研修の計画【整備基準 18、43】 13
14 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)【整備基準 40】 13
15 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48 ～ 51】 14
16 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】 14
17 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件【整備基準 33】 15
表1 各研修施設の概要 16
表2 各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性 17
1)専門研修基幹施設 18
2)専門研修連携施設 20
3)専門研修特別連携施設 50
愛媛県立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会 56

1 理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

1)本プログラムは、愛媛県松山医療圏の中心的な急性期病院である愛媛県立中央病院を基幹施設として、愛媛県内にある連携施設等での内科専門研修を経て、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として愛媛県全域を支える内科専門医の育成を行います。

2)初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での原則 3 年間(基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間)に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養を有し、様々な医療環境で全人的な内科医療を実践する能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学びます。その際、単なる繰り返しではなく、疾患や病態によって、特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験もできることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導・評価を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

使命【整備基準 2】

1)愛媛県松山医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、①高い倫理観を持ち、②最新の標準的医療を実践し、③安全な医療を心がけ、④プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。

2)本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民に生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。

3)疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。

4)将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

1)本プログラムにおいては、愛媛県松山医療圏の中心的な急性期病院である愛媛県立中央病院を基幹施設として、愛媛県内にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医

療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設・特別連携施設 1 年間の 3 年間になります。

2)愛媛県立中央病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。

3)基幹施設である愛媛県立中央病院は、愛媛県松山医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、愛媛県全体の病診・病病連携の中核でもあります。コモンディジーズの経験はもちろん、さまざまな高度先進医療の経験もでき、地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます。

4)基幹施設である愛媛県立中央病院、連携施設・特別連携施設での 2 年間(専攻医 2 年修了時)で、「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム(以後 J-OSLER と表記)に登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます。

5)愛媛県立中央病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、原則として専門研修 2 年目の 1 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。希望に応じて 3 年目にも異なる医療機関での研修が可能なプログラムとしています。

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は、1)高い倫理観を持ち、2)最新の標準的医療を実践し、3)安全な医療を心がけ、4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。

内科専門医の関わる場は多岐にわたりますが、それぞれの場に応じて、下記に掲げる専門医像に合致した役割を果たし、国民の信頼を獲得することが求められています。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる専門医像は単一でないですが、その環境に応じて役割を果たすことこそが内科専門医に求められる可塑性です。内科専門医が活躍する場とその役割として、以下のものが想定されます。

1)病院医療:内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、身体・精神の統合的・機能的視野から診断・治療を行う能力を備え実践する。内科疾患全般の初期対応とコモンディジーズの診断と治療を行うことに加え、内科系サブスペシャリストとして診療する際にも、臓器横断的な視点を持ち全人的医療を実践する。

2)地域医療:かかりつけ医として地域において常に患者と接し、内科系の慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を任務とする全人的な内科診療を実践する。

3)救急医療:内科系急性・救急疾患に対するトリアージを含め、地域での内科系の急性・救急疾患への迅速かつ適切な診療を実践する。

愛媛県立中央病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムと General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、愛媛県松山医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

2 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1) ～6) により、愛媛県立中央病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 16 名とします。

1)愛媛県立中央病院内科の卒後 3～5 年次医師は現在 3 学年併せて 22 名で 1 学年 6 ～ 9 名の実績があります。

2)剖検体数は、2013 年度 20 体、2014 年度 9 体、2015 年度 16 体、2016 年度 17 体、2017 年度 14 体、2018 年度 12 体、2019 年度 12 体、2020 年度 11 体、2021 年度 11 体、2022 年度 10 体、2023 年度 8 体、2024 年度 14 体、2025 年度 10 体です。

3)13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています。

4)1 学年 16 名までの専攻医であれば、専攻医 2 年修了時に「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた 45 疾患群、80 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です。

5)連携施設・特別連携施設は、大学病院 5 施設、専門病院 2 施設、地域医療密着型病院 14 施設の計 21 施設あり、専攻医の様々な希望・将来像に対応可能です。

6)専攻医 3 年修了時に「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた少なくとも 56 疾患群、120 症例以上の診療経験は達成可能です。

表

2025 年度実績	入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)
総合診療科	121	–5,567
消化器内科	1678	19,955
循環器内科	1466	14,291
糖尿病・内分泌内科	245	14,603
腎臓内科	–467	–15,284
呼吸器内科	1025	14,369
神経内科	384	8,910
血液内科	740	11,523
感染症内科	1	86

3 専門知識・専門技能とは

1)専門知識【整備基準 4】[「内科研修カリキュラム項目表」参照]

専門知識の範囲(分野)は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病及び類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。

「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標（到達レベル）とします。

2 ）専門技能【整備基準 5】[「技術・技能評価手帳」参照]

内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。

4 専門知識・専門技能の習得計画

1 ）到達目標【整備基準 8 ～ 10】

主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。各年次の到達目標は以下に掲げる数字を目安とします。

〇専門研修（専攻医）1 年 :

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群以上を経験し、J-OSLER に登録することを目標とします。また、病歴要約を 10 編以上 J-OSLER に登録し、担当指導医の評価を受けます。

・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見の解釈、および治療方針の決定を指導医、Subspecialty 上級医とともに行うことができます。

・態度：専攻医は自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

〇専門研修（専攻医）2 年 :

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 45 疾患群以上の経験をし、J-OSLER にその研修内容を登録します。
専門研修修了に必要な病歴要約 29 編を全て登録し、担当指導医の評価を受けます。

・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見の解釈、および治療方針の決定を指導医、Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます。

・態度：専攻医は自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

地域医療を経験し、common disease を中心に、主担当医として、患者の初期評価から治療計画を立案し、実践していきます。

〇専門研修（専攻医）3 年:

・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上を目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます。症例の内訳は最終頁別表を参照）を経験し、J-OSLER にその研修内容を登録します。症例指導医は J-OSLER の登録内容を確認し、専攻医として適切な経験と知識の習得ができていることが確認できた場合に承認します。

・外来症例は、内科専攻に相応しい症例経験として、プロブレムリストの上位に位置して対応が必要となる場合（単なる投薬のみなどは認めない）に限り、登録が可能です。

・内科専門研修として相応しい入院症例の経験は DPC 制度（DPC/PDPS：Diagnosis Procedure Combination / Per-Diem Payment System）における主病名、退院時サマリの主病名、入院時診断名、外来症例でマネジメントに苦慮した症例等における病名が想定されます。

・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、所属するプログラムにおける一次評価を受け、その後、日本内科学会の病歴要約二次評価査読委員による査読を受け、受理されるまで改訂を重ねます。この評価はプログラム外からの評価（外部評価）であり、プログラム内に留まらない多面的かつ客観的な評価を受けることになります。また査読者から専攻医へは、評価とともにコメントがフィードバックされるため、査読者とのやり取りを通じて専攻医の成長が促されるという効果も期待されています。専門研修修了には、全ての病歴要約 29 編の受理と、70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 120 症例以上の経験が必要です。

・技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます。

・態度：専攻医は自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

愛媛県立中央病院内科施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）ですが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を1年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

2 ）臨床現場での学習【整備基準 13】

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

① 各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、病態や診断過程の理解を深め、多面的な視点や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を向上させます。

② 初診を含む外来を少なくとも週 1 回、担当医として経験を積みます。

③ 内科領域の救急診療の経験を、外来あるいは当直を通じて積みます。

④ 必要に応じて、Subspecialty 診療科検査を担当します。

3 ）臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1)内科領域の救急対応、2)最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、3)標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4)医療倫理、医療安全、感染対策、臨床研究や利益相反に関する事項、5)専攻医の指導・評価方法に関する事項等は、以下の方法で研鑽します。

① 定期的に開催する各診療科での症例検討会

② 医療倫理・医療安全・感染対策に関する講習会

※内科専攻医は日本専門医機構が定める専門医共通講習と同等の内容を年 2 回以上受講することが求められます。

③ CPC(2025 年度実績 9 回)

④ 地域参加型のカンファレンス(愛媛県立中央病院医療連携懇話会 2025 年度 7 回)

⑤JMECC 受講(基幹施設:2025 年度開催実績 1 回:受講者 5 名)

※内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します。

⑥ 内科系学術集会(下記「7.学術活動に関する研修計画」参照)

など

4)自己学習【整備基準 15】

カリキュラムでは、知識に関する到達レベルを A(病態の理解と合わせて十分に深く知っている)と B(概念を理解し、意味を説明できる)に分類、 技術・技能に関する到達レベルを A(複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる)、B(経験は少数例ですが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる)、C(経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる)に分類、さらに、症例に関する到達レベルを A(主担当医として自ら経験した)、B(間接的に経験している(実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した)、C(レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した)と分類しています。(「研修カリキュラム項目表」参照)

自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習します。

① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信

② 日本内科学会雑誌にある Multiple Choice Questions(MCQ)

③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題 など

5)研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 41】

J-OSLER を用いて、以下を web ベースで日時を含めて記録します。

・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で 最低 56 疾患群以上 の経験と計 120 症例(外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる)以上の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。

・メディカルスタッフによる 360 度評価、専攻医による逆評価を入力して記録します。

・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会の病歴要約二次評価査読委員による査読を受け、専門研修3年次終了までにすべての病歴要約が受理されるように改訂します。

・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。

・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等(例:CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会)の出席をシステム上に登録します。

5 リサーチマインドの養成計画【整備基準 6、12、30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたって続けていく際に不可欠となります。

愛媛県立中央病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても、

① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
② 科学的な根拠に基づく診断、治療を行う(EBM; evidence based medicine)。
③ 最新の知識、技能を常にアップデートする(生涯学習)。
④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。
⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。

併せて、

① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
② 後輩医師の指導を行う。
③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。

を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

6 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

愛媛県立中央病院内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院、特別連携病院のいずれにおいても、

① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します(必須)。
※ 日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します。
② 経験症例をもとに文献検索を行い、症例報告を行います。
③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。
④ 内科学に関連する基礎研究を行います。

を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。

内科専攻医は筆頭演者または筆頭著者として学会あるいは論文発表を 2 件以上行うことが求められます。

なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、愛媛県立中央病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

7 医師としての倫理性、社会性等【整備基準 7】

内科専門医として高い倫理観と社会性を有することが求められ、具体的には以下の項目が要求されます。

① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢
⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全への配慮
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性(プロフェッショナリズム)
⑧ 地域医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけではなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

8 地域医療における施設群の役割【整備基準 11、28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するために地域の中核となる総合病院での研修は必須です。

愛媛県立中央病院は、愛媛県松山医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、愛媛県全体の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できるよう、多くの施設と連携しています。立場や地域における役割の異なる複数の医療機関で研修を行うことによって、各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験し、内科専門医に求められる役割を実践します。医療機関の特徴は別に示す表1、表2、施設説明を参照してください。

9 地域医療に関する研修計画【整備基準 28、29】

愛媛県立中央病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

愛媛県立中央病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

10 専攻医研修モデル【整備基準 16】

愛媛県立中央病院　内科専門研修
プログラム　内科基本コース

	専攻医１年	専攻医２年	専攻医３年
プログラム	内科ローテート[1)]	連携施設[2)]	予備ローテート[3)]
			希望専門科
外来など	総合診療科外来	外来	希望専門科外来
	救急　日当直	救急　日当直	救急　日当直
経験疾患群到達目標 （年次終了まで計）	20疾患以上	45疾患以上	56疾患以上
経験症例数目標 （年次終了まで計）	40症例以上	80症例以上	120症例以上
病歴要約 （年次終了まで計）	10編以上	20編以上	29編
その他	JMECC		病歴要約提出

1）消化器、循環器、糖尿病内分泌、腎臓、神経、呼吸器、総合診療科、感染症の9科のうち希望科数科を
　1.5～3か月でローテート、希望あれば週1日は希望診療科での研修
2）連携施設での研修時期は弾力的に行う
3）充足してない領域をローテート

1)

愛媛県立中央病院　内科専門研修
プログラムsubspecialty重点コース

	専攻医１年	専攻医２年	専攻医３年
プログラム	内科ローテート[1)] or 希望専門科	連携施設[2)]	希望専門科
			予備ローテート[3)]
外来など	総合診療科外来	外来	希望専門科外来
	救急　日当直	救急　日当直	救急　日当直
経験疾患群到達目標 （年次終了まで計）	20疾患以上	45疾患以上	56疾患以上
経験症例数目標 （年次終了まで計）	40症例以上	80症例以上	120症例以上
病歴要約 （年次終了まで計）	10編以上	20編以上	29編
その他	JMECC		病歴要約提出

1）消化器、循環器、糖尿病内分泌、腎臓、神経、呼吸器、総合診療科、感染症の9科のうち希望科数科を
　1.5～3か月でローテート。もしくは希望専門科での研修
2）連携施設での研修時期は弾力的に行う
3）関連施設での研修も可
4）主として専攻医1年目ローテート時と3年目にSubspecialty領域の研修を連動して行う
　subspecialty領域の研修は卒後6年で終了を目指す

愛媛県立中央病院　内科専門研修
プログラム地域医療重点コース

	専攻医１年	専攻医２年	専攻医３年
プログラム	内科ローテート[1)]	連携施設[2)]	連携施設[2)3)]
			予備ローテート[4)]
外来など	総合診療科外来	外来	外来
	救急　日当直	救急　日当直	救急　日当直
経験疾患群到達目標 （年次終了まで計）	20疾患以上	45疾患以上	56疾患以上
経験症例数目標 （年次終了まで計）	40症例以上	80症例以上	120症例以上
病歴要約 （年次終了まで計）	10編以上	20編以上	29編
その他	JMECC		病歴要約提出

1）消化器、循環器、糖尿病内分泌、腎臓、神経、呼吸器、総合診療科、感染症の9科のうち希望科数科を
　1.5～3か月でローテート、希望あれば週1日は希望診療科での研修
2）連携施設、特別連携施設での研修時期、期間は弾力的に行う
3）特別連携施設、または連携施設での地域医療主体の研修
4）充足してない領域をローテート

愛媛県立中央病院　内科専門研修
プログラム　内科・サブスペシャルティ混合タイプ（並行研修）コース

	専攻医１年	専攻医２年	専攻医３年	専攻医４年
プログラム	内科ローテート[1)]、連携施設[2)]、 希望専門科（サブスペ研修）			
外来など	総合診療科外来、希望専門科外来			
	救急　日当直			
経験疾患群到達目標 （年次終了まで計）	56疾患以上			
経験症例数目標 （年次終了まで計）	120症例以上			
病歴要約 （年次終了まで計）	29編			
その他	JMECC、病歴要約提出			

1）消化器、循環器、糖尿病内分泌、腎臓、神経、呼吸器、総合診療科、感染症の9科を2～6か月で
　ローテート（他病院での研修も可、ただし、院内での研修は12か月以上）
2）連携施設での研修時期は任意とする

基幹施設である愛媛県立中央病院内科で、専門研修(専攻医)1 年目と3 年目に 2 年間の専門研修を行います。

専攻医 1年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)などを基に、専門研修(専攻医)2 年目の研修施設を調整し決定します。病歴提出を終える専門研修(専攻医)3 年目の 1 年間は原則として愛媛県立中央病院内科での研修ですが、希望や経験症例に応じて連携施設、特別連携施設で研修をします(図 1)。

なお、研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能です(個々人により異なります)。

11 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17、19 ～ 22】

(1)愛媛県立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会の役割

・愛媛県立中央病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について J-OSLER の研修手帳 Web 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。

・定期的に J-OSLER をもとに研修実績や病歴要約などの進捗を確認し J-OSLER への入力を促します。

・年に複数回(8 月と 2 月、必要に応じて臨時に)、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は J-OSLER を通じて集計され、1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促します。

・メディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)を年 2 回以上行います。担当指導医、Subspecialty 上級医に加えて、看護長、看護師、臨床検査技師・診療放射線技師・臨床工学技士、事務職員などから、接点の多い職員 5 人を指名し、評価します。評価表では社会人としての適性、医師としての適性、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、臨床研修センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 2 名から 5 名までの異なる職種による評価を実施します。その結果は担当指導医が取りまとめ、J-OSLER に登録します(他職種はシステムにアクセスしません)。評価結果をもとに担当指導医がフィードバックを行って専攻医に改善を促します。これらの評価を参考に、修了判定時に医師としての社会人適性を判断します。

・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット(施設実地調査)に対応します。

(2)専攻医と担当指導医の役割

・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医(メンター)が愛媛県立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会により決定されます。

・専攻医は J-OSLER にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。

専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。

担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。

・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。

・専攻医は、専門研修(専攻医)2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し、J-OSLER に登録します。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、プログラム内の病歴指導医、病歴要約二次評価査読委員による評価とフィードバックが行われ、専門研修(専攻医)3 年次修了までにすべての病歴要約が受理(アクセプト)されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。

(3)評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を愛媛県立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

(4)修了判定基準【整備基準 53】

1)担当指導医は、J-OSLER を用いて研修内容を評価し、以下ⅰ)～ⅶ)の修了を確認します。

ⅰ)主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上(外来症例は 1 割まで含むことができます)を経験することを目標とします。その研修内容を J-OSLER に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例(外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる。症例の内訳は最終頁 別表を参照)を経験し、登録することが必要です。

ⅱ)29 病歴要約の査読後の受理

ⅲ)所定の 2 編の学会発表または論文発表

ⅳ)内科系の学術集会や企画に参加すること

推奨される講演会として、日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系サブスペシャルティ学会の学術講演会・講習会等

ⅴ)JMECC 受講

ⅵ)プログラムで定める講習会受講

医療倫理・医療安全・感染対策に関する講習会を、任意の異なる組み合わせにより、年 2 回以上の受講が必要

ⅶ)指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)の結果に基づき、医師としての適性に疑問がないこと

2)愛媛県立中央病院内科専門医研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 ヵ月前に愛媛県立中央病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

(5)プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画(FD)の実施記録」は、J-OSLER を用います。

なお、「愛媛県立中央病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】と「愛媛県立中央病院内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 45】と別に示します。

12 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34、35、37～39】(「愛媛県立中央病院内科専門研修管理員会」参照)

1)愛媛県立中央病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

ⅰ)内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。

内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者、プログラム管理者(ともに総合内科専門医かつ指導医)、事務局代表者、内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者(診療科科長)および連携施設担当委員で構成されます。

ⅱ)愛媛県立中央病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長 1 名(指導医)は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共

有するために、毎年 6 月と 3 月に開催する愛媛県立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会の委員として出席します。

基幹施設、連携施設ともに、毎年 4 月 30 日までに、愛媛県立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会に以下の報告を行います。

① 前年度の診療実績

a) 病院病床数、b) 内科病床数、c) 内科診療科数、d) 1か月あたり内科外来患者数、e)1 か月あたり内科入院患者数、f) 剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数

a)前年度の専攻医の指導実績、b)今年度の指導医数/総合内科専門医数、c)今年度の専攻医数、~~d~~) 次年度の専攻医受け入れ可能人数

③ 前年度の学術活動

a) 学会発表、b) 論文発表

④ 施設状況

a) 施設区分、b) 指導可能領域、c) 内科カンファレンス、d) 他科との合同カンファレンス、e)抄読会、f) 机、g) 図書館、h) 文献検索システム、i) 医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、j)JMECC の開催

⑤ Subspecialty 領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数、日本循環器学会循環器専門医数、日本内分泌学会専門医数、日本糖尿病学会専門医数、日本腎臓病学会専門医数、日本呼吸器学会呼吸器専門医数、日本血液学会血液専門医数、日本神経学会神経内科専門医数、日本アレルギー学会専門医(内科)数、日本リウマチ学会専門医数、日本感染症学会専門医数、日本老年学会専門医数、日本肝臓学会専門医、日本臨床腫瘍学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医

13 プログラムとしての指導者研修の計画【整備基準 18、43】

指導法の標準化のため厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講が推奨されます。

指導者研修の実施記録として、J-OSLER を用います。

14 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)【整備基準 40】

労働基準法や医療法を遵守することを原則とします。

基幹施設である愛媛県立中央病院での研修期間は愛媛県立中央病院の就業環境に基づき、連携施設もしくは特別連携施設での研修期間は、各研修先医療機関の就業環境に基づき、就業します。

基幹施設である愛媛県立中央病院の整備状況:

·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。

·メンタルストレスに適切に対処する部署(総務医事課職員係担当)があります(ハラスメントを含む)。

·女性専攻医向けの安全な休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。

·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

専門研修施設群の各研修施設の状況については、「愛媛県立中央病院内科専門施設群」を参照。

また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は愛媛県立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。

15 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48 ～ 51】

1)専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、愛媛県立中央病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

2)専攻医等からの評価(フィードバック)をシステム改善につなげるプロセス

施設の内科専門研修委員会、プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、愛媛県立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

① 即時改善を要する事項
② 年度内に改善を要する事項
③ 長期的に改善を要する事項
④ 内科領域全体で改善を要する事項
⑤ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合は、日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

担当指導医、施設の内科研修委員会、愛媛県立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、愛媛県立中央病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して愛媛県立中央病院内科専門研修プログラムを評価します。

·担当指導医、各施設の内科研修委員会、愛媛県立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタします。

状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てます。

3)研修に対する監査(サイトビジット等)・調査への対応

愛媛県立中央病院臨床研修センターと愛媛県立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会は、愛媛県立中央病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に、必要に応じて愛媛県立中央病院内科専門研修プログラムの改良を行います。

16 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は、毎年 website での公表や説明会などを行い、内科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は、愛媛県立中央病院臨床研修センターの website の愛媛県立中央病院医師募集要項(愛媛県立中央病院内科専門研修プログラム:内科専攻医)に従って応募します。書類選考および面接を行い、愛媛県立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知します。

(問い合わせ先) 愛媛県立中央病院臨床研修センター
E-mail: c-kensyu@eph.pref.ehime.jp

愛媛県立中央病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく J-OSLER にて登録を行います。

17 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に J-OSLER を用いて愛媛県立中央病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、愛媛県立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから愛媛県立中央病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から愛媛県立中央病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに愛媛県立中央病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、J-OSLER への登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1 日 8 時間、週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって、研修実績に加算します。

留学期間は、原則として研修期間として認めません。

表1 各研修施設の概要

	病院名	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
基幹 施設	愛媛県立 中央病院	827	約 250	9	44	39	13
連携 施設	愛媛県立 今治病院	270	65	6	3	7	0
連携 施設	愛媛県立 新居浜病院	208	約 40 混合病床	6	3	4	0
連携 施設	愛媛県立 南宇和病院	199	73	5	1	0	0
連携 施設	愛媛大学医学部附 属病院	628	135	16	43	58	5
連携 施設	徳島大学 病院	671	154	7	38	55	18
連携 施設	高知大学医学部附 属病院	613	161	8	33	50	3
連携 施設	長崎大学 病院	776	244	8	106	97	9
連携 施設	大阪医科薬科大学 病院	894	302	9	50	55	11
連携 施設	四国がんセンター	368	140	6	9	12	2
連携 施設	愛媛医療センター	324	148	6	8	9	1
連携 施設	市立八幡浜 総合病院	256	約 80 一部混合病床の ため	4	3	3	0
連携 施設	西予市立 西予市民病院	154 療養病床 43 床休床	52	2	1	0	0
連携 施設	高知医療センター	620	134	13	14	11	8
連携 施設	近森病院	489	250	13	29	24	9
連携 施設	徳島赤十字 病院	405	173	8	11	23	15
連携 施設	国立循環器病研究 センター	527	279	11	76	50	21
連携 施設	堺市立総合 医療センター	480	192	10	32	26	7
連携 施設	市立池田病院	364	194	8	23	20	2
連携 施設	守口敬仁会病院	185	60	4	5	7	2

連携施設	姫路赤十字病院	560	183	10	23	23	5
連携施設	沖縄県立中部病院	559	201	10	27	18	4
特別連携施設	西予市立野村診療所	0	0	1	2	2	0
特別連携施設	国民健康保険久万高原町立病院	60			2		
特別連携施設	鬼北町立北宇和病院	99	約 45	1	0	0	0
特別連携施設	伊方町国民健康保険瀬戸診療所	19	19	1	1	1	0
特別連携施設	松野町国民健康保険中央診療所	15	15	1	0	0	0
特別連携施設	愛南町国保一本松病院付属内海診療所	0	0	1	0	0	0

表2 各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
愛媛県立中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
愛媛県立今治病院	○	○	○	○	○	△	△	○	○	×	○	○	○
愛媛県立新居浜病院	○	○	○	△	○	△	△	△	×	△	×	○	○
愛媛県立南宇和病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
愛媛大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
徳島大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
高知大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
長崎大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪医科薬科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
四国がんセンター		○					○	○				○	
愛媛医療センター	○	○	○		△		○		○	△		○	○
市立八幡浜病院	○	△	○	○	○	△	△	×	×	△	△	△	○
西予市立西予市民病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	△	△	○	○
高知医療センター	○	○	○	×	×	○	○	○	×	○	×	○	○
近森病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

徳島赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国立循環器病研究センター	△	×	○	○	○	○	×	×	○	×	×	△	○
堺市立総合医療センター	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	△	○	○
市立池田病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
守口敬仁会病院	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△
姫路赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○
沖縄県立中部病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
西予市立野村診療所	○	○	△	×	△	×	△	×	×	×	×	△	○
国民健康保険 久万高原町立病院	○	○	△	△	△	△	△	×	△	×	△	△	△
鬼北町立北宇和病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
伊方町国民健康保険瀬戸診療所	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
松野町立国民健康保険中央診療所	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
愛南町国保一本松病院付属内海診療所	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

1）専門研修基幹施設

愛媛県立中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ※県非常勤医師として労務環境が保障されています ・メンタルストレス（ハラスメント含む）に適切に対処する部署（総務医事課職員担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は44名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（主任部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を、専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2024年度 9回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、年に1回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても56以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 14 体、2023 年度実績 8 体、2022 年度実績 10 体、2021 年度実績 11 体）を行っています。

認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2022年度実績9回)しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表(2024年度実績10演題)をしています。
指導責任者	副院長(消化器内科) 二宮 朋之 【内科専攻医へのメッセージ】 愛媛県立中央病院は、愛媛県松山医療圏の中心的な急性期病院であり、高度救命救急センターを併設しています。コモンディジーズからまれな疾患まで、また救急医療からがんの診断・治療までと、幅広い患者を経験できます。さらに地域の連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。
指導医数 (常勤医)	日本消化器病学会消化器専門医数 14 日本循環器学会循環器専門医数 9 日本内分泌学会専門医数 2 日本糖尿病学会専門医数 5 日本腎臓病学会専門医数 4 日本呼吸器学会呼吸器専門医数 7 日本血液学会血液専門医数 7 日本神経学会神経内科専門医数 5 日本アレルギー学会専門医(内科)数 2 日本感染症学会専門医 2 日本リウマチ学会専門医数 0 日本肝臓学会専門医 9 臨床腫瘍学会専門医 1 消化器内視鏡学会専門医 14 日本老年学会専門医数 3 ほか
外来・入院 患者数	外来患者25, 195名(1ヶ月平均) 入院患者(延患者数)15, 295名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会専門医認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本胆道学会指導施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設

	日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本感染症学会連携研修施設 非血縁者間骨髄採取認定施設 非血縁者間骨髄移植認定施設 非血縁者間末梢血幹細胞採取（移植）認定施設 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会専門医研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定 総合診療医・家庭医後期研修プログラム認定施設 日本東洋医学会研修施設 ステントグラフト実施認定施設 日本専門医機構認定総合診療専門研修プログラム基幹施設など

2）専門研修連携施設

愛媛県立今治病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレス（ハラスメント含む）に適切に対処する部署（総務医事課）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は8名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024年度実績：13回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を設けます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に出席し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を設けます。 ・CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を設けます。 ・地域参加型のカンファレンス（2024年度実績7回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を設けます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、血液、アレルギー、膠原病、感染症及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表をしています。

指導責任者	川上　秀生 【内科専攻医へのメッセージ】 愛媛県立今治病院は、愛媛県今治医療圏（約 15 万人）の中核公的病院であり、愛媛県立中央病院、愛媛大学附属病院を基幹型施設とする内科専門研修プログラムの連携病院として、内科専門医の育成を行います。また、初期臨床研修制度の基幹型および協力型研修施設として、研修医の研修も行っております。当院は 270 床の中規模病院のため、医師や看護師はもちろんメディカルスタッフ、事務を含めて、職員の顔が見える環境にあり、誰にでも気兼ねなく相談できるという特長があります。また、県立中央病院では経験できない一次救急や二次救急の対応など、充実した研修ができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医3名、日本内科学会総合内科専門医6名 日本循環器学会専門医2名 日本心血管インターベンション治療学会専門医2名 日本消化器病学会専門医2名 日本消化器内視鏡学会専門医2名 日本肝臓学会専門医1名 日本糖尿病学会専門医2名 日本老年医学会専門医3名 日本神経学会専門医1名 日本臨床神経生理学会専門医1名 日本認知症学会専門医1名 日本血液学会専門医1名 日本超音波学会専門医1名
外来・入院患者数	外来患者 3,317 名（内科：1 ヶ月平均） 入院患者 1,197 名（内科：1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 日本内科学会教育関連施設 日本循環器学会教育施設 日本老年医学会教育施設 日本心血管インターベンション学会教育関連施設 日本心臓血管内視鏡学会教育施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本血液学会研修教育施設

愛媛県立新居浜病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度の協力型臨床研修病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレス（ハラスメント含む）に適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は3名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的

	余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、血液、感染症及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表をしています。
指導責任者	芝田 直純 【内科専攻医へのメッセージ】 新居浜病院は、愛媛県新居浜・西条医療圏の中心的な総合病院であり、愛媛県立中央病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	指導医3名、日本内科学会総合内科専門医4名、 日本消化器病学会消化器専門医3名、 日本循環器学会循環器専門医2名、 日本糖尿病学会専門医1名、 日本救急医学会救急科専門医1名 日本消化器内視鏡学会専門医3名
外来・入院患者数	外来患者 8875 名（1ヶ月平均） 入院患者 3958 名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 11 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会専門医制度専門研修連携施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、 日本糖尿病学会教育関連施設、 日本消化器内視鏡学会指導施設 など

愛媛県立南宇和病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度 協力型臨床研修病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレス（ハラスメント含む）に適切に対処する部署（事務局）があります。また、院内に相談員が3名います。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、当直室が整備されています。 ・院内保育所はありませんが、隣接地に愛南町の保育所があります。

認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は1名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会の連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024年度実績 医療安全5回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスの開催がある場合は、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2024年度実績12回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	村上晃司 【内科専攻医へのメッセージ】 愛媛県立南宇和病院は、愛媛県宇和島医療圏に位置し、その内の南宇和郡内の中心的な急性期病院であり、愛媛県立中央病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医（指導医）1名
外来・入院患者数	外来患者5,168名（1ヶ月平均） 入院患者2,130名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 当院では、平成２６年７月から、地域包括ケア病床を取り入れるとともに、退院後の訪問看護など地域包括ケアの推進に努めています。また、医師会と毎月１回、医療セミナーを実施しています。
学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設 など

愛媛大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	専攻医が心身とも充実して研修月できるよう勤務時間，休暇，当直，給与等の勤務条件に関しては，専攻医の就業環境を整えることを重視します． 労働基準法を順守し，愛媛大学医学部附属病院の「専攻医就業規則及び給与規則」に従います．専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します．特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います．専攻医は採用時に上記の労働環境，労働安全，勤務条件の説明を受けることとなります．プログラム管理委員会では各施設における労働環境，労働安全，勤務に関して報告され，これらの事項について総括的に評価します．
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラ	○専門研修 1 年 症例：カリキュラムに定める 70 疾患群のうち，20 疾患群以上を経験し，専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録することを目標とします．

ムの環境	技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにします． 態度：専攻医自身の自己評価，指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います． 〇専門研修 2 年 疾患：カリキュラムに定める 70 疾患群のうち，通算で 45 疾患群以上を（できるだけ均等に）経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録することを目標とします． 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにします． 態度：専攻医自身の自己評価，指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います．専門研修 1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします． 〇専門研修 3 年 疾患：主担当医として，カリキュラムに定める全 70 疾患群，計 200 症例の経験を目標とします．但し，修了要件はカリキュラムに定める 56 疾患群，そして 120 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができる）とします．この経験症例内容を専攻医登録評価システム（J-OSLER）へ登録します．既に登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます． 技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができるようにします．
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	2）に記載
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	筆頭演者または筆頭著者として学会あるいは論文発表（症例報告）を積極的に推進し、指導を行います。
指導責任者	日浅陽一（第 3 内科・教授）、竹中克斗（第 1 内科・教授）、山口修（第 2 内科・教授）、高田康徳（糖尿病内科・教授）、大八木保政（脳神経内科・教授）、永井将弘（臨床薬理神経内科・特任教授）、薬師神芳洋（臨床腫瘍学・教授）、阿部雅則（地域医療・総合診療学・教授）、熊木天児（総合臨床研修センター・教授）
指導医数 （常勤医）	約43名
外来・入院患者数	内科系外来患者延べ人数 105010 人/年、内科系全体の退院患者数 3843 人/年
経験できる疾患群	総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝腎臓、呼吸器、血液、 神経、アレルギー、膠原病および類縁疾患、感染症、救急
経験できる技術・技能	専門技能(診察、検査、診断、処置、手術など) 専門研修3年目には内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができるよう指導を行います。
経験できる地域医療・診療連携	各診療科の関連病院において地域医療・診療連携を研修することが出来ます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会、消化器学会、循環器学会、内分泌学会、腎臓学会、呼吸器学会、血液学会、神経学会、消化器内視鏡学会、糖尿病学会、肝臓学会など

徳島大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 臨床研修指定病院である。 ・ 施設内に研修に必要なインターネットの環境が整備されている。 ・ 適切な労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処するため基幹施設と連携できる。 ・ ハラスメントについては，職員相談室を設置している。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室や更衣室等が配慮されている。 ・ 敷地内外を問わず保育施設等が利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】	・ 内科指導医が38名在籍している。 ・ 研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管

2)専門研修プログラムの環境	理委員会と連携を図ることができる。 · 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催しており，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えている。 · 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えている。 · CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付けている。 · 地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えている。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野全て（総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病及び類縁疾患，感染症，救急）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	· 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしている。
指導責任者	松岡　賢市（血液内科　科長） 徳島大学病院は，徳島県内外の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っている．本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して，質の高い内科医を育成するものである．また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とする。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医38名， 日本内科学会総合内科専門医55名 ， 日本消化器病学会消化器病専門医28名， 日本肝臓学会肝臓専門医9名， 日本循環器学会循環器専門医13名 ， 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医10名， 日本糖尿病学会糖尿病専門医11名， 日本腎臓学会腎臓専門医4名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医13名， 日本血液学会血液専門医10名， 日本神経学会神経内科専門医11名， 日本アレルギー学会アレルギー専門医2名， 日本リウマチ学会リウマチ専門医4名 ， 日本感染症学会感染症専門医2名， 日本老年医学会老年病専門医4名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医24名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医8名　ほか
外来・入院患者数	総外来患者（延数）368,719 人うち内科 111,225 人（1 ヶ月平均 9,269 人）：2023 年度、総入院患者数（延数）197,179 人うち内科 60,326 人（1 ヶ月平均 5,027 人）：2023 年度
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験可能である。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設

	日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本神経学会専門医制度における教育施設 日本認知症学会教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本プライマリ・ケア連合学会新・家庭医療専門研修プログラム認定施設 日本ペインクリニック学会ペインクリニック専門医指定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本東洋医学会研修施設 日本老年医学会認定施設 など

高知大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・施設内に研修に必要な図書やインターネットの環境が整備されている。 ・適切な労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署が整備されている。 ・ハラスメント委員会が整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等が配慮されている。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が在籍している。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携体制が整っている。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしている。

指導責任者	【指導責任者:藤本新平】 ▼内科専攻医へのメッセージ▼ 高知大学医学部附属病院は、高知県内唯一の大学病院として、学生教育、初期臨床研修および専門医取得までの教育/研修をシームレスに行い、キャリアアップを強力に支援します。大学病院の内科系診療科のみならず、高知県下の多くの医療機関が連携し、臨床能力はもちろんのこと、リサーチマインドを持った新しい時代に対応できる内科専門医の育成を全力で行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医:33名 日本内科学会総合内科専門医:50名 日本消化器病学会指導医:9名 日本肝臓学会指導医:5名 日本内分泌学会指導医:5名 日本糖尿病学会指導医:7名 日本腎臓学会指導医:4名 日本呼吸器学会指導医:5名 日本血液学会指導医:4名 日本神経学会指導医:3名 日本アレルギー学会指導医:5名 日本リウマチ学会指導医:3名 日本感染症学会指導医:3名 日本老年医学会指導医:5名 日本臨床腫瘍学会指導医:2名 日本消化器内視鏡学会:4名 ※以上、内科専門医基幹学会及び関連学会に関するもののみ列挙した。
外来・入院患者数	外来患者数　14, 270名(前年度初診患者、入院患者数12, 781名(前年度)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある　13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設指定 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本アレルギー学会教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会研修施設 日本老年医学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 ※以上、内科専門医基幹学会及び関連学会に関するもののみ列挙した。

長崎大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	専攻医の勤務時間，休暇，当直，給与等の勤務条件に関しては，専攻医の就業環境を整えることを重視します． 専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します．特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います．専攻医は採用時に上記の労働環境，労働安全，勤務条件の説明を受けることとなります． 1）専攻医用の机，椅子 専攻医が個人で使用できる専用の机と椅子，ロッカーを用意しています．専攻医控室には，共用で使用できるインターネットに接続可能なパソコン，カルテ端末，コピー機，ファクシミリ，シュレッダー，冷蔵庫，電子レンジなどを設置しています． 2）インターネット環境 病院内のあらゆる場所で無線LANが利用可能な環境を用意しています．インターネットを通じて，研修に必要な文献検索・手技動画サイトの「PubMed」，「医中誌 Web」，「CareNet CME」，「今日の診療」，「メディカルオンライン」，「UpToDate」，「臨床手技データベース」などが利用できます． 3）図書室 隣接の医学部キャンパスに附属図書館医学分館があります．また，外来・研究棟 10 階に病院共同図書室があり，24 時間利用可能です． 4）メンタルヘルス・ハラスメント相談 メンタルストレスやハラスメントに対処する部署として，院内にこころとからだの健康相談室を設置し，専任の臨床心理士が常駐しています． 5）メディカル・ワークライフバランスセンター 長崎大学病院で働く医療人および長崎県内の医療機関に勤務する医師が，ワークライフバランスを実現させ，働きがいをもって医療を提供できる環境の整備を整備するための部署を設置しています． 6）シミュレーションセンター 中央診療棟4階にあるシミュレーションセンターには，各種シミュレーターを設置しています．事前に申し込んでおけば，24 時間，365 日利用することができます． 7）女性専攻医への配慮 院内には女性医師専用の休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています． 8）院内保育所 病院隣接地に院内保育所があり，利用可能です．″
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	（1）臨床現場での学習 1）入院診療：内科専攻医は，担当指導医もしくは Subspecialty 上級医の指導の下，主担当医として入院症例の診療を通じて，内科専門医を目指して常に研鑽します．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態の把握，社会的背景への配慮・療養環境調整などを包括する全人的医療を実践します． 2）外来診療：内科外来（初診を含む）や Subspecialty 診療科外来（初診を含む）を行い，原則週 1 回，1 年以上担当医として経験を積みます． 3）救急・当直診療：内科当直や救急対応を通して，内科領域の救急診療，病棟急変対応などの経験を積みます． 4）カンファレンス・回診：定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科あるいは関連診療科合同カンファレンス・回診を通じて，担当症例の病態や診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます．また，プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高め，議論を通じて，担当以外の症例についても見識を深めます． 5）学生・初期研修医に対する指導：病棟や外来で医学生・初期研修医を指導します．後輩を指導することは，自分の知識を整理・確認することにつながることから，当プログラムでは，専攻医の重要な取組と位置づけています． （2）臨床現場を離れた学習 ①内科領域の救急対応，②最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解，③標準的な医療安全や感染対策に関する事項，④医療倫理，医療安全，感染対策，臨床研究や利益相反に関する事項などについ

	て，以下の方法で研鑽します． 1）症例検討会・CPC：診断・治療困難例，臨床研究症例等について専攻医が報告し，指導医からのフィードバック，質疑・議論を行います．また，CPCでは，死亡・剖検例，難病・稀少症例の病理診断を検討します． 2）診療・手技セミナー：診療技術や治療，必要とされる知識に関する実践的なセミナーを受講し，研鑽を積みます． 3）抄読会・研究報告会：受持症例や最新の知見等に関する論文概要を口頭説明し，意見交換を行います．研究報告会では講座で行われている研究について討論を行い，学識を深め，国際性や医師の社会的責任について学び，リサーチマインドを磨きます． 4）JMECC ※ 内科専攻医は内科専門研修プログラム研修中に受講します． 5）医療倫理，医療安全，感染対策，臨床研究や利益相反に関する講習会 ※ 内科専攻医は年2回以上受講し，学習します． （3）自己学習 研修カリキュラムにある疾患について，内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信を用いて自己学習します．また，日本内科学会雑誌の multiple choice question やセルフトレーニング問題を解き，内科全領域における知識のアップデートの確認手段とします．
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	長崎大学病院には9つの内科系診療科（リウマチ・膠原病内科，内分泌・代謝内科，脳神経内科，呼吸器内科，腎臓内科，消化器内科，循環器内科，血液内科，総合感染症科）があり，幅広い内科研修が可能です．また，救急疾患は各診療科や救命救急センターによって管理されており，長崎大学病院においては内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています．これらの診療科での研修を通じて，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます．
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	症例の経験を深めるための学術活動における目標を設定し，自己研鑽を生涯にわたって行っていく能力を涵養します． 1）内科系の学術集会や企画に年2回以上参加する 2）経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行う 3）クリニカルクエスチョンを見出して臨床研究を行う 4）内科学の発展に通じる基礎研究を行う 上記のうち，（2）～（4）は筆頭演者または筆頭著者として学会あるいは論文発表を2件以上すること．
指導責任者	氏名：前村　浩二
指導医数 （常勤医）	107名（2023年度実績）
外来・入院患者数	外来患者延べ数 110,410（人／年） 退院患者数 5,857 名（人／年） ※2023 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．一方でカリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医は積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始することができます．
経験できる地域医療・診療連携	地域の連携施設・特別連携施設による研修を組み合わせることによって，内科全般研修ならびに地域住民に密着した地域医療を学習します．

学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会循環器研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会研修認定施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本アレルギー学会教育認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

大阪医科薬科大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･大阪医科薬科大学病院レジデントとして労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ･ハラスメント委員会が整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 50 名在籍しています（下記）。 ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績　医療安全 7 回，感染対策 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（2024 年度実績 1 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	今川彰久 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪医科薬科大学病院は，大阪府と京都との間に位置する三島医療圏に属し，人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています．本プログラムは愛媛県立中央病院と連携して内科医を育成することを目的とし，特に大学病院ならではの高度医療や多職種チーム医療を経験していただきます．また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。どうぞ本プログラムにご参加ください。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医50名，日本内科学会総合内科専門医55名、日本消化器病学会消化器専門医24名，日本循環器学会循環器専門医16名，日本内分泌学会専門医3名，日本糖尿病学会専門医7名，日本腎臓病学会専門医2名，日本呼吸器学会呼吸器専門医7名，日本血液学会血液専門医6名，日本神経学会神

	経内科専門医6名，日本アレルギー学会専門医（内科）1名，日本リウマチ学会専門医13名，日本感染症学会専門医2名，日本救急医学会救急科専門医2名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 12,657 名（1ヶ月平均） 入院患者 7,984 名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

独立行政法人国立病院機構四国がんセンター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要なインターネットの環境，図書室が整備されており、UPToDaTe、国立病院が契約している電子ジャーナル等が閲覧できます。 ・四国がんセンター専攻医としての労務環境が保障されています。 ・研修医室は、パーテーションで区切られた部屋になっています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務担当職員および産業医）があります。

	・ハラスメント委員（職員暴言・暴力担当窓口）が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室等が整備されています。 ・敷地内に保育施設があり，利用が可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設である愛媛県立中央病院で行う CPC，もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えています。 ・地域参加型のカンファレンス（呼吸器研究会，循環器研究会，消化器病研修会）は基幹病院および松山市医師会及び愛媛県医師会が定期的に開催しており，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科Ⅰ Ⅱ Ⅲ，消化器，呼吸器，血液，および感染症の分野で、常時 専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	臨床研究センター長（消化器内科） 仁科 智裕 【内科専攻医へのメッセージ】 独立行政法人国立病院機構四国がんセンターは，愛媛県松山医療圏，松山市の南東にあります。愛媛県がん診療連携拠点病院として，県のがん診療の中心的存在であるだけでなく，四国ブロックの「がん」に関する中心的施設として，ナショナルセンターとの連携のもとに，高度で専門的な医療，臨床研究，教育研修及び情報発信の機能を備えています。また，全国がん（成人病）センター協議会の一員として，常に最新の情報を共有しています。 病棟では，医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない，各医師・各職種および家族を含めたカンファレンスを毎週実施し治療の方向性，在宅療養の準備を進め，外来・在宅担当医師・スタッフへとつないでいます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会認定医教育施設指導医 9 名，日本内科学会総合内科専門医 12 名，日本消化器病学会消化器専門医 10 名，日本呼吸器学会指導医 2 名，日本肝臓学会専門医 7 名，日本循環器病学会循環器専門医 1 名，日本血液学会血液専門医 3 名，日本感染症学会専門医 1 名， 日本消化器内視鏡学会専門医 8 名，日本臨床腫瘍学会専門医 8 名
外来・入院患者数	1 日平均患者数:【外来】486.1 名 【入院】241.2 名 病床数:368 床（ICU4 床，緩和ケア 25 床，一般 339 床 ）
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域，70 疾患群の症例については，高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて，広く経験することとなります．複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を，四国がんセンターという枠組みのなかで，経験していただきます。 健診・健診後の精査・必要時の各治療への流れ． 消化器悪性腫瘍・呼吸器悪性腫瘍，造血器腫瘍に関する最新の知識および診断・治療技術取得を通して，最終的に臨床腫瘍学会専門医の資格取得を目指します。これに加えて，消化器および呼吸器の悪性腫瘍を対象とした内視鏡技術（診断と治療）を習得し，消化器専門医および消化器内視鏡専門医ならびに呼吸器内科専門医および呼吸器内視鏡専門医の資格取得を目指します。 また，緩和ケア医としての基本技術の習得も，緩和ケア医と連携しながら学ぶことができます。がん治療に伴う各種感染症について適切な診断，抗菌薬選択，治療に至るプロセスを学ぶことができます。 嚥下機能評価（嚥下造影にもとづく）および口腔機能評価（歯科医師によります）による，機能に見合った食事の提供と誤嚥防止への取り組み，褥創についてのチームアプローチも，指導可能です。
経験できる地域医療・診療連携	入院診療については，急性期病院から治療目的で転院してくる治療が必要な入院患者の診療。 残存機能の評価，多職種および家族と共に退院後の治療・療養方針・療養の場の決定と，その実施にむけた調整。

	在宅へ復帰する患者については，地域の内科病院に外来診療，訪問診療・往診，それを相互補完する訪問看護との連携，ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と，医療との連携について模索する。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医教育関連特殊施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本消化器病学会指導施設

独立行政法人国立病院機構愛媛医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ※非常勤医師として労務環境が保障されています ・メンタルストレス（ハラスメント含む）に適切に対処する部署（管理課担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、仮眠室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は8名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会・基幹施設と連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する連携施設の内科責任者を設置しています。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・愛媛県立中央病院と連携し、高度な医療を優しくかつ安全に配慮して提供する全人的な良医を育てる。内科系医師としての呼吸器、循環器、消化器・糖尿病、神経疾患分野での必要な基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身につけます。 ・また医療チームの中での医師としての役割、周りの医療機関との連携に関して学び考える機会を持てます。更に救急輪番日を中心に 2 次救急患者に対する診療能力を養成します。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に開催しています。
指導責任者	臨床研究部長（呼吸器内科） 伊東　亮治 【内科専攻医へのメッセージ】当センターでは、救急から慢性疾患まで多岐にわたる症例を経験できます。経験豊富な指導医がきめ細やかにサポートします。日々の診療はもちろんのこと、手技指導、症例検討、学会発表など、様々な場面で実践的な指導を受けることができます。疑問や不安があれば、いつでも相談できる環境です。
指導医数 （常勤医）	8名
外来・入院患者数	外来患者 172 名（1 日平均） 入院患者 263 名（1 日平均）
経験できる疾患群	（呼吸器内科） 肺結核・非結核性抗酸菌症、間質性肺炎、COPD、睡眠時無呼吸症候群 気管支喘息、呼吸器感染症、肺結核後遺症、呼吸不全、気胸、胸膜炎、 （循環器内科） 虚血性心疾患、拡張型および肥大型心筋症、心不全、高血圧、不整脈、心臓弁膜症、開心術後の心臓リハビリテーション （消化器内科・糖尿病内科） 上下部消化管疾患、慢性肝疾患、胆膵疾患、糖尿病などの疾患 （脳神経内科） 神経筋疾患、アルツハイマー病、レビー小体型認知症、脳卒中、髄膜炎などの感染症など
経験できる技術・技能	当院では呼吸器内科、循環器内科、消化器・糖尿病内科、脳神経内科の急性期から亜急性期および機能回復にいたる慢性期医療、予防医療を経験することができます。

	特殊技能として、気管支塞栓術（EWS）、局所麻酔下胸腔鏡検査を経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定教育関連施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本循環器学会専門医研修施設、日本消化器病学会認定施設、日本糖尿病学会認定施設、日本神経学会准教育施設

市立八幡浜総合病院

認定基準 【整備基準24】 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレス（ハラスメント含む）に適切に対処する部署（事務局庶務係担当）があります。 ・専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は3名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024年度実績　医療安全5回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4）学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	酒井　武則 【内科専攻医へのメッセージ】 市立八幡浜総合病院は、愛媛県八幡浜市と西宇和郡伊方町からなる八西地域では唯一の総合病院であり、軽症から重症の患者様が来院されます。また、年間約 3,000 人の救急搬送があり、多彩な疾患を経験することが可能です。現在 17 の標榜科を有し、病床数は一般病床 254 床、感染症病床 2 床、合計 256 床あり、高度な先進医療機器を備えています。平成 29 年 3 月に病院改築が完了し、新病棟での診療を開始しています。地域住民のニーズに迅速に対応し、信頼される病院を目指し、職員全員が日々診療に励んでいます。研修先として満足いただけると確信しています。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医3名、日本内科学会総合内科専門医3名 、日本循環器学会循環器専門医2名、 日本糖尿病学会専門医1名、 日本消化器内視鏡学会専門医2名、日本消化器病学会専門医2名
外来・入院患者数	外来患者7,112名（1ヶ月平均）　入院患者3,589名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	当院は一次救急から二次救急までの患者を受け入れています。多彩な症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	一般内科として診療に当たりつつ、透析、循環器内科、糖尿病内科などの専門領域とのコラボが可能です。
経験できる地域医療・診療連携	地域医療は穴井診療所、市立大洲病院、大島診療所、精神科は八幡浜医師会立双岩病院で研修が可能です。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会総合内科専門医関連施設、日本循環器学会専門医研修施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、 日本高血圧学会専門医認定施設、日本透析医学会教育関連施設

西予市立西予市民病院

認定基準 【整備基準24】 1）専攻医の環境	(1)初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 (2)研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 (3)メンタルストレス（ハラスメント含む）に適切に対処する担当者（労働安全衛生委員会で決めた担当）があります。 (4)女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 (5)当院の隣接地に、事業所内保育所・病児保育所を設置しております。 (6)敷地内に医師住宅があり、空き部屋があれば入居可能です。
認定基準 【整備基準24】 2）専門研修プログラムの環境	(1)研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 (2)医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療倫理1回、医療安全4回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 (3)内科医師によるカンファレンス(新入院患者、問題のある症例・週1回)、チーム医療としてのコメディカルを含めた入院患者のカンファレンス（週1回）、内科医師による入院患者の総回診を行います。 (4)一般外来、救急外来、入院患者主治医 (5)超音波検査、上部下部内視鏡検査
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	小規模病院のため、症例の数、分野の偏りはありますが、基本的にはカリキュラムに示す内科領域 13 分野の診療をしています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	(1)日本内科学会地方会などでの学会発表、論文作成の奨励、支援を行います。 (2)日本内科学会等関連学会、研究会への参加を奨励します。
指導責任者	菊池　良夫 【内科専攻医へのメッセージ】 愛媛県南予地域の中核的な病院です。小規模の病院なので、主治医として責任を持った主体的な医療を行うことができるため、短期間でも臨床能力を向上させることができます。内科専門研修にとどまることなく、二次救急医療や地域包括ケアの中心的存在としての役割など地域に必要な、すべてに対応できる病院を目指して、若い意欲的な医師の参集を期待しています。
指導医数（常勤医）	日本内科学会総合内科専門医2名
外来・入院患者数	のべ外来患者1,215名（1ヶ月平均）のべ入院患者1,222名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	いわゆるcommon diseaseは、一般外来、救急外来にて内科全般にわたって経験できます。また、高齢者が多いので、認知症、廃用症候群などにかかわる問題や、細かい対応が求められる複数の疾患を持つ患者に、主治医として関わることができるので、単に疾患の知識、技術のみでなく、全人的な対応をする経験を積むことができます。
経験できる技術・ 技能	(1)救急の場面でのプライマリケアに必要な手技 (2)腹部超音波検査、上部下部消化管内視鏡検査、心臓超音波検査
経験できる地域医療・ 診療連携	(1)三次機能病院への紹介、救急搬送　(2)開業医との連携　(3)在宅訪問診療　(4)地域医療連携(5)介護保険認定審査会

学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会特別関連施設認定

高知県・高知市病院企業団立高知医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（リエゾンナース，臨床研修管理センター）があります. ･ハラスメント委員会が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が14名在籍しています（下記）. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を開催（2024年度実績　医療安全2回，感染対策1回　※すべてe-learningにて実施）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2024年度実績8回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域のうち９分野において、定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会又は同地方会、その他内科系学会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績 29 演題）をしています.
指導責任者	指導責任者：岡本　宣人 【内科専攻医へのメッセージ】 　高知医療センターは、６つの診療機能（がんセンター、循環器病センター、地域医療センター、総合周産期母子医療センター、救命救急センター、こころのサポートセンター）を有しており、高知県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修終了後に大学病院などの内科系診療科が連携して、質の高い内科医を育成するものです。また、単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位のサービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医14名，日本内科学会総合内科専門医11名 日本消化器病学会消化器専門医7名，日本循環器学会循環器専門医4名 日本呼吸器学会呼吸器専門医2名，日本血液学会血液専門医4名 日本腎臓病学会専門医1名、日本糖尿病学会専門医１名、日本アレルギー学会専門医1名 （2025.4時点）
外来・入院患者数	外来患者 16,254 名（1ヶ月平均）入院患者 13,108 名（1ヶ月平均）（2024 年度） 外来患者 15,929 名（1ヶ月平均）入院患者 13,123 名（1ヶ月平均）（2023 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	がんの急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応したがん患者の診断，治療，緩和ケア，終末期医療などを通じて，地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本腎臓学会研修施設

	日本透析医学会教育関連施設 日本循環器学会認定循環専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 非血縁者間造血幹細胞移植認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本超音波学会認定超音波専門医制度研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

社会医療法人近森会　近森病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・適切な労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する環境（健康管理センター・メンタルヘルスケアサポート連絡会）が整っている。 ・ハラスメント委員会が整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等が配慮されている。 ・敷地内に院内保育所があり、24 時間 365 日利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が30名在籍している。 ・内科研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る体制が整っている。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしている。 （2024 年実績　5 演題）
指導責任者	細田勇人 当院内科は約 30 年にわたり大内科制をとっており、救急病院としての救急医療の中核を担っている。そのため、高知県全域から様々な疾患を持った救急患者・重症患者が当院に紹介され救急搬送されている。内科医としての Generality が求められる一方で近年は専門的治療にも特化しており、世界標準の治療を目指して診療を行っている。入院患者対応を行う中で、専門性を磨きつつ、内科一般の幅広い知識を身につけられる。
指導医数 （常勤医）	30名 日本内科学会総合内科専門医28名

	日本消化器病学会指導医6名/専門医13名 日本消化器内視鏡学会指導医5名/専門医10名 日本循環器学会専門医18名 日本心血管インターベンション治療学会専門医5名/認定医9名 日本心臓病学会心臓病上級臨床医FJCC 2名 日本動脈硬化学会指導医2名 日本不整脈心電学会不整脈専門医3名 日本高血圧学会指導医1名 日本呼吸器学会指導医2名/専門医2名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医1名/専門医1名 日本血液学会指導医2名/専門医2名 日本内分泌学会指導医1名/専門医2名 日本糖尿病学会指導医1名/専門医3名 日本腎臓学会指導医1名/専門医2名 日本透析医学会指導医1名/専門医2名 日本肝臓学会指導医2名/専門医2名 日本感染症学会指導医1名/専門医1名 日本老年医学会指導医4名/専門医7名 日本神経学会指導医4名/専門医5名 日本脳卒中学会指導医5名/専門医6名 日本リウマチ学会指導医2名/専門医3名 日本救急医学会救急科専門医7名 日本化学療法学会抗菌化学療法指導医1名 JMECCディレクター2名/インストラクター5名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 10,612 名(2024 年度) 入院患者 11,730 名(2024 年度)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	救命救急センター 地域医療支援病院 災害拠点病院 基幹型・協力型臨床研修病院 卒後臨床研修評価機構認定 日本医療機能評価機構 機能種別版評価項目 3rdG:Ver.1.1/付加機能(救急医療機能 Ver.2.0) 日本内科学会 教育病院 日本循環器学会 循環器専門医研修施設 日本神経学会 教育施設 日本脳卒中学会一次脳卒中センターコア 日本脳卒中学会 研修教育施設 日本老年医学会 認定施設 日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本消化器病学会 認定施設 日本消化管学会 胃腸科指導施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本呼吸器内視鏡学会 認定施設 日本高血圧学会 研修施設Ⅰ 日本動脈硬化学会 教育病院 超音波医学会 超音波専門医研修施設

	日本心エコー図学会　認定心エコー図専門医制度研修関連施設 日本不整脈心電学会　不整脈専門医研修施設 MRI対応植込み型デバイス患者のMRI検査の施設基準 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本循環器学会左心耳閉鎖システム実施施設 日本循環器学会経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設 経カテーテル的大動脈弁置換術　専門施設 日本心血管インターベンション治療学会　潜因性脳梗塞に対する卵円孔開存閉鎖術実施施設 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ 日本リウマチ学会教育施設 日本肝臓学会　関連施設 日本腎臓学会　認定教育施設 日本透析医学会　教育関連施設 日本感染症学会　研修施設　など

徳島赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・日本赤十字社常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が徳島赤十字病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。敷地内に院内保育園があり、利用可能です。 また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は徳島赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、夜勤回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者（副院長；認定内科医・指導医、血液専門医・指導医）、プログラム管理者（診療部長；総合内科専門医・指導医、糖尿病専門医・研修指導医他）、事務局代表者、内科Subspecialty分野の研修指導責任者（診療科部長）および連携施設担当委員で構成されます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	基幹施設である徳島赤十字病院での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	徳島赤十字病院内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院、特別連携病院のいずれにおいても、 ①内科系の学術集会や企画に年2回以上参加します。（必須）。 ※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPCおよび内科系Subspecialty学会の学術講演会・講習会を推奨します。 ②経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。 ③臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。 ④内科学に通じる基礎研究を行います。 を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。 内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者2件以上行います。 なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、徳島赤十字病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。
指導責任者	副院長（循環器内科）　細川　忍 徳島赤十字病院内科専門研修プログラムでは、徳島県南部医療圏の中心的な急性期病院である徳島赤十字病院を基幹施設として、徳島県南部・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設と共に、内科専門研修を通じて専門的な知識や技術の習得にとどまらず、徳島県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた全人的な医療を実践できる内科専門医の育成を行います。

指導医数 （常勤医）	日本消化器病学会消化器病専門医 12名、日本循環器学会専門医 17名、 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2名、日本腎臓学会専門医 1名、 日本血液学会専門医 4名、日本神経学会専門医 1名、 日本消化器内視鏡学会専門医 10名、日本糖尿病学会専門医 3名、 日本肝臓学会専門医 2名、日本臨床腫瘍学会専門医 2名　ほか
外来・入院患者数	外来患者数 721.7 名（令和 6 年度 1 日平均） 入院患者数 373.9 名（令和 6 年度 1 日平均）
経験できる疾患群	基幹施設である徳島赤十字病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします。
経験できる技術・技能	研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty上級医の監督下で行うことができます。
経験できる地域医療・診療連携	徳島赤十字病院は、徳島県南部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
学会認定施設 （内科系）	• 一般社団法人日本専門医機構 内科領域 基幹施設 • 日本腎臓学会 研修施設 • 日本肝臓学会 認定施設 • 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 • 日本血液学会 専門研修認定施設 • 公益財団法人 日本骨髄バンク 一般社団法人日本造血・免疫細胞療法学会 非血縁者間骨髄採取認定施設 • 公益財団法人 日本骨髄バンク 非血縁者間末梢血幹細胞採取認定施設 • 一般社団法人日本造血・免疫細胞療法学会 非血縁者間造血幹細胞移植 Low Volume Center（血液科） • 日本消化器病学会 専門医制度認定施設 • 日本消化器内視鏡学会 専門医制度指導施設 • 日本消化管学会 胃腸科指導施設 • 日本透析医学会 教育関連施設 • 日本神経学会 准教育施設 • 日本脳卒中学会 認定研修教育施設 • 日本脳卒中学会 一次脳卒中センター（PSC） • 日本脳卒中学会 一次脳卒中センター（PSC）コア • 日本認知症学会 教育施設 • 日本循環器学会 専門医研修施設 • 日本循環器学会 経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設 • 日本循環器学会 左心耳閉鎖システム実施施設 • 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 • 日本心血管インターベンション治療学会 潜因性脳梗塞に対する卵円孔開存閉鎖術実施施設 • 日本不整脈心電学会 不整脈専門医研修施設 • 補助人工心臓治療関連学会協議会 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 • 日本糖尿病学会 認定教育施設 • 日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会 • 日本心血管インターベンション治療学会教育委員会 経皮的心房中隔欠損閉鎖術施行施設 • 日本超音波医学会 専門医研修施設 • 日本高血圧学会 研修施設 • 日本臨床腫瘍学会 認定研修施設（連携施設） • 日本がん治療認定医機構 認定研修施設 • 日本救急医学会 指導医指定施設　など

国立循環器病研究センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·非常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理室担当)があります。 ·ハラスメント委員会が人事課に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	指導医は 76 名在籍しています。 ·内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2023 年度実績 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催し(2023 年度実績 8 回)、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス(病病、病診連携カンファレンス 2023 年度実績 2 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 6 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記)。 専門研修に必要な剖検を行っています.(2023 年度 21 体)
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の 学会発表(2023 年度実績 3 演題)をしています. また、内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでいます(2023 年度 383 演題)
指導責任者	野口 暉夫
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 76 名、日本内科学会総合内科専門医 50 名 日本循環器学会循環器専門医 55 名、日本糖尿病学会専門医 7 名、 日本内分泌学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 6 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、 日本神経学会神経内科専門医 22 名、日本老年医学会専門医 2 名 日本感染症学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 164,222 名 入院患者 158,364 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 5 領域、24 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設

	日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本超音波医学会研修施設 日本透析医学会研修施設 日本脳卒中学会研修施設 日本高血圧学会研修施設など

堺市立総合医療センター

認定基準 【整備基準23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・堺市立総合医療センター常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処するためヘルスケアサポートセンターを設置しています。 ・「地方独立行政法人堺市立病院機構ハラスメントの防止等に関する要綱」に基づきハラスメント通報・相談窓口が設置されており、内部統制室が担当しています。同要綱に基づき、ハラスメント防止委員会が所要の措置を講じています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・隣接する職員寮の敷地内に院内保育所、病児・病後児保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は32名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会において、基幹施設、連携施設に設置されている内科専門研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床教育センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会などを定期的に開催（2024年度実績eラーニング6回）し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2024年度実績14症例）し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催（2024年度実績4回）し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2024年度自施設内開催実績1回）を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育センターが対応します。 ・特別連携施設の専門研修では、指導医の連携施設への訪問に加えて電話や週1回の堺市立総合医療センターでの面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域のうち内分泌を除くほぼすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2024年度実績7体）を行っています。
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、自習室、ソフトウエアなどを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024年度実績10回）しています。 ・臨床研究推進室を設置し、定期的に治験審査会を開催（2024年度実績12回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会には、13演題(2024年度)の学会発表をしています。
指導責任者	西田幸司 【内科専攻医へのメッセージ】 当院内科の理念 1.　堺市二次医療圏の中核病院として急性期医療を担うことで地域医療に貢献する。

	2.　優秀な内科医を育み、日本の医療に貢献する。 　私が育てたい内科医は「ジェネラルマインドを持ったスペシャリスト」です。自らの専門分野にとどまることなく、患者さんが抱えている問題を大きく把握し、優先順位を考えることで、その方に最適な医療を提供できる医師。それが、超高齢社会の日本で求められる内科医像だと考えます。そのためには、基礎的な内科力と総合的な判断力が必要です。当院では20年以上前から内科専攻医を受け入れ、ローテートシステムにより内科の土台作りを行ってきました。全国の「ジェネラルマインドを持ったスペシャリスト」を目指す専攻医の皆さんとともに診療できる日を心待ちにしております。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 32 名、日本内科学会総合内科専門医 27 名、 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本消化器内視鏡学会専門医 6 名、 日本肝臓病学会専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 4 名、 日本透析医学会専門医 5 名、日本内分泌学会専門医 2 名、 日本血液学会血液専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 4 名、日本脳卒中学会専門医 2 名、 日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本感染症学会専門医 2 名、 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 2 名　ほか
外来・入院 患者数	外来患者17,869名（平均延数／月）　新入院患者1,202名（平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	内科専門研修プログラム基幹施設 日本集中治療医学会認定専門医研修施設 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本麻酔科学会認定病院 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本血液学会認定医研修施設 日本病理学会研修認定施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本臨床細胞学会認定教育研修認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本IVR学会認定専門医修練認定施設 日本てんかん学会認定研修施設 日本禁煙学会教育認定施設 日本糖尿病学会認定教育研修認定施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設

市立池田病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・医師臨床研修制度基幹型臨床研修病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境、Wi-Fi環境があります. ・池田市非常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(臨床心理士担当)があります. ・ハラスメント対策委員会が池田市役所に整備されています. ・女性専攻医向けの安全な、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています. ・ 敷地内に院内保育所があり, 利用可能です.
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	日本内科学会指導医は 23 名在籍しています。(2025 年 4 月現在) ·内科専門研修プログラム管理委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024 年度実績計 6 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催(2023 年度実績 2 回、2024 年度実績 6 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス(病病・病診連携カンファレンス)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域15領域のうち12領域(アレルギー、膠原病、感染症を除く)では定常的に、アレルギー、膠原病、感染症領域も非常勤医と連携して専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計10演題以上の学会発表(2021年度実績7演題、2022年度実績11演題)をしています.
指導責任者	石田　永(1名) 【内科専攻医へのメッセージ】 市立池田病院は, 大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり, 同じ医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い, GeneralityとSubspecialityとのどちらも追及できる可塑性があって, 地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します.
指導医数(常勤)	日本内科学会指導医23名、日本内科学会総合内科専門医20名,日本消化器病学会消化器専門医9名, 日本肝臓学会肝臓専門医6名、日本循環器学会循環器専門医4名、日本内分泌学会内分泌専門医3名、日本糖尿病学会糖尿病専門医3名, 日本腎臓学会腎臓専門医2名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医5名, 日本血液学会血液専門医2名、日本神経学会神経内科専門医3名ほか
外来・入院 患者数(内科系)	外来延患者数　334人/日　新入院患者数380人/月　(2024年度)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある15領域, 70疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	地域医療支援病院 厚生労働省臨床研修指定病院(医科・歯科) 大阪府がん診療拠点病院

	日本医療機能評価機構認定病院（3rdG：Ver.2.0） 卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定病院 日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設 日本炎症性腸疾患学会指導施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本膵臓学会認定指導医制度指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会研修認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本臨床神経生理学会認定施設 日本認知症学会教育施設 日本臨床細胞学会施設 日本アレルギー学会認定準教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本栄養治療学会 NST（栄養サポートチーム）稼動施設 日本緩和医療学会認定研修施設

守口敬仁会病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書を有し、インターネット環境があります。 ・時間外労働の上限を明確にし、労働時間を厳重に管理しています。 ・ハラスメント委員会が設置されており、メンタルストレスにも適切に対処しております。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が5名在籍し、研修委員会を設置し、基幹施設と連携を図ることができます。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会、研修施設群合同カンファレンスおよびCPCを定期的に開催し、専攻医に参加・受講を義務付け、その時間を配慮しています。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち少なくとも 6 分野以上で定常的に研修が可能です。 ・特に消化器疾患、人工透析を要するような疾患に関しては様々な症例の研修が可能です。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書を有し、常在している病理医と連携を図り、病理組織についても学習可能です。 ・日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会および日本消化管学会などで発表しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・大阪医科大学附属病院と連携し、他施設共同試験なども行っています。
指導責任者	副院長（消化器内科） 川上　研 【内科専攻医へのメッセージ】 　守口敬仁会病院は、大阪府北河内医療圏の中心的な急性期病院であり、特に消化器疾患や人工透析に関連した疾患に対応しています。コモンディジーズからまれな疾患まで、また救急医療からがんの診断・治療までと、幅広い患者を経験できます。周囲の診療所と連携を図っており、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　5名 日本腎臓学会腎臓指導医　1名 日本透析医学会指導医　1名 日本消化器病学会指導医　2名 日本消化器内視鏡学会指導医　2名 日本消化管学会　胃腸科指導医　2名 日本炎症性腸疾患学会IBD指導医　1名 内分泌代謝・糖尿病内科領域　研修指導医　1名
外来・入院患者数	内科系全体の外来患者延べ数　26004 人 内科系全体の入院患者数　2678 人 2024 年度
経験できる疾患群	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち少なくとも 6 分野以上の疾患に対して経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、周囲の診療所と連携することで緩和医療などの在宅医療に関わることができ、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	・日本腎臓学会研修施設 ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・日本大腸肛門病学会認定施設 ・日本透析医学会認定施設 ・日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 ・日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本消化器病学会認定施設 ・日本消化器内視鏡学会認定指導施設 ・日本消化管学会胃腸科指導施設 ・日本炎症性腸疾患指導施設

姫路赤十字病院

認定基準 1）専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境(Free Wi-Fi)があります。 ・ 姫路赤十字病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課）があります。 ・ ハラスメント委員会が整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育を含め利用可能です。
認定基準 2）専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 23 名在籍しています。 ・ 施設内に臨床研修センターと内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、併せて設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績：医療倫理 1 回、医療安全 10 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2024 年度：5 回、2023 年度実績：5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会、姫路市救急医療合同カンファレンス、姫路循環器談話会、姫路呼吸器研究会、姫路消化器病研究会等）を定期的に開催し、専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 当プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。

認定基準 3）診療経験の環境	・臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・研修に必要な内科剖検(2022 年度 5 件、2021 年度 9 件、2020 年度実績：2 体、2019 年度実績：8 体、2018 年度実績：12 体、2017 年度実績：11 体)を行っています。
認定基準 4）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・医中誌、PubMed、Clinical Key、Cochrane Library、DynaMed、UpToDate、今日の診療など文献検索、データベース、医療情報に加え、冊子体ジャーナル（和雑誌 108 誌、洋雑誌 81 誌購読）を取り揃えています。 ・UpToDate anywhere を自宅 PC や mobile 機器で、いつでも、どこでも、何時間でも利用できます。（但し、通信費用は自己負担です） ・Clinical Key：1,100 以上の書籍・教科書、600 以上のジャーナル、17,000 以上の医療動画など豊富な医療情報を入手できます。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績：12 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に自主研究・受託研究審査会を開催（2024 年度実績：15 回）しています。 ・日本内科学会総会や同地方会で積極的に発表しています（2024 年度実績：3 演題）。 ・Subspecialty 学会に積極的に発表しています（2024 年度実績：38 演題）。
プログラム統括責任者　筑木隆雄	プログラム統括責任者　筑木隆雄 【内科専攻医へのメッセージ】 姫路赤十字病院は、兵庫県はりま姫路医療圏の中心的な急性期総合病院であり、消化器、肝臓、循環器、血液、呼吸器、膠原病、腎臓、糖・代謝・内分泌、消化器内視鏡の専門診療を積極的に展開しています。 本プログラムの連携施設として、上記領域の専門診療並びに内科救急疾患診療を研修することにより、質の高い、幅広い診療領域に通じた、地域に根差した医療を実践できる内科専門医を育成することを目指しています。 姫路赤十字病院では、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）までを通じて、確かな診断・治療はもとより、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医となれるように、しっかり指導します。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医　23 名 日本内科学会総合内科専門医　23 名 日本消化器病学会消化器専門医　11 名 日本肝臓学会肝臓専門医　5 名 日本循環器学会循環器専門医　6 名 日本糖尿病学会専門医　0 名 日本腎臓学会腎臓専門医　2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　3 名 日本血液学会血液専門医　4 名 日本リウマチ学会専門医　5 名 日本消化器内視鏡学会専門医　11 名
外来・入院 患者数	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 外来患者延べ数　86,730　名（2023 年度実績） 新入院患者　6,255　名（2023 年度実績）
経験できる疾患群	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群、200 疾患の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）	地域がん診療連携拠点病院（高度型） 日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本アレルギー学会認定準教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本放射線腫瘍学会認定協力施設 日本ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾅﾙﾗｼﾞｵﾛｼﾞｰ学会(IVR)専門医修練認定施設 日本ペインクリニック学会指定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ治療学会認定研修関連施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設　　など

沖縄県立中部病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･沖縄県の規定に準じて労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ･ハラスメントを担当する委員会が沖縄県立中部病院に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 27 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：喜舎場朝雄（医療部長），プログラム管理者：宮城唯良（循環器内科副部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）、内科研修委員会委員長：須藤航）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と初期研修、他科のプログラムを含む全体研修全体を管理するハワイ大学中部病院卒後臨床研修プログラムの共同でプログラム運営します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績院内開催 1 回、2024 年度実績院内開催医療倫理 1 回、感染対策 2 回、医療安全 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（別紙参照）を定期的に開催し，専攻医に受講を促し，そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2024 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ･特別連携施設の専門研修では，電話やカンファレンスの配信、インターネットなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）

3)診療経験の環境	·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 56 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ·専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 1 体，2023 年度 8 体,2024 年度実績 4 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています。 ·研究倫理審査委員会を設置し，定期的に開催（2023 年度実績 1 回※迅速審査 2024 年度実績 41 件）し、臨床研究内容の審査などをしています。 ·治験管理室を設置し，定期的に治験審査委員会を開催（2024 年度実績 4 回）しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 12 演題、その他内科系学会にて計 10 演題（研修医が筆頭演者または筆頭著者は計 7 件）発表をしています。
指導責任者	喜舎場朝雄 【内科専攻医へのメッセージ】 沖縄県立中部病院は，沖縄県中部医療圏の中心的な急性期病院であり，歴史的に、連携施設である、沖縄県立北部、宮古、八重山病院と深く連携し、救急、総合内科的研修を中心とした研修を行い、多くの総合内科専門医を輩出してきました（沖縄県の総合内科専門医の約 1/3 弱が当院での初期、または後期研修経験者です）。「Specialist である前に良き generalist であれ」を合言葉に、内科専攻医を育てます。幅広く内科全般を学びたい研修医に適した病院です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 27 名，日本内科学会総合内科専門医 18 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名，日本肝臓学会専門医 4 名,日本循環器学会循環器専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 1 名，日本腎臓病学会専門医 5 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，日本血液学会血液専門医 1 名，日本神経学会神経内科専門医 2 名，日本リウマチ学会専門医 5 名，日本感染症学会専門医 1 名，日本救急医学会救急科専門医 6 名ほか
外来・入院患者数 （年間）2023 年度	外来患者 7,267 名（1 ヶ月平均）入院患者 521 名（1 ヶ月平均）内科のみの人数
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）経験できる疾患群	日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本脈管学会認定研修指定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関 日本 IVR 学会専門医修練施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本認知症学会専門医制度教育施設 日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医研修施設 日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本病理学会病理専門医制度研修認定施設(B) 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士実地修練認定教育施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本栄養療法推進協議会NST稼働施設 卒後臨床研修評価機構認定

3）専門研修特別連携施設

西予市立野村診療所

認定基準 【整備基準24】 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレス(ハラスメント含む)に適切に対処する部署があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は1名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策委員会等を定期的に開催。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、救急、循環器、代謝、呼吸器、感染症の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4）学術活動の環境	
指導責任者	大塚　伸之 【内科専攻医へのメッセージ】 　愛媛県立中央病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数（常勤医）	日本内科学会総合内科専門医1名、日本糖尿病学会専門医1名、日本老年医学会専門医1名
外来・入院患者数	外来患者数2,750名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基に幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本老年医学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士認定規則実地修練認定教育施設

国民健康保険久万高原町立病院

認定基準 【整備基準24】 1）専攻医の環境	・研修に必要なインターネットの利用が施設内で可能です。 ・病院敷地内の宿舎を休憩等にも利用できます。 ・メンタルストレスには基幹施設と連携し対応を行います。
認定基準 【整備基準24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は2名在籍しています。 ・研修委員会を設置し、基幹施設のプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全や感染対策講習会については、基幹施設で受講をしていただくことになりますが、時間的余裕は与えます。

認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	・高齢者が多いため、総合診療的な要素が強く、肺炎・心不全・尿路感染といった疾患が診療の主体となります。 ・救急の受け入れも行っているので、蘇生措置の必要な患者への対応等も時に経験する機会があります。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	※該当なし
指導責任者	院長　松木　克之
指導医数(常勤医)	日本消化器病学会消化器専門医　2名
外来・入院患者数	外来患者　約1,365名(内科1ヶ月平均) 入院患者　約1,197名(内科1ヶ月平均延べ)
経験できる疾患群	・高齢の患者が多いことから、肺炎・心不全・尿路感染症等の疾患が主体となります。
経験できる技術・技能	・総合診療的なものとなります。
経験できる地域医療・診療連携	高齢者が多く慢性期疾患が中心となりますが、地域の診療所業務なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	※該当なし

鬼北町立北宇和病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要なインターネット環境があります。 ・敷地内に院内宿舎があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024年度実績、医療安全2回、感染対策2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(2024 年度実績 10 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症及び救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に 1 演題以上の学会発表(2024 年度実績 0 演題)をしています。
指導責任者	矢野　聡 【内科専攻医へのメッセージ】 鬼北町立北宇和病院は、愛媛県宇和島医療圏の病院であり、愛媛県立中央病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	
外来・入院患者数	外来患者 2,483 名(2024 年度 1 ケ月平均)入院患者 1,095 名(2024 年度 1 ケ月分)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	

伊方町国民健康保険瀬戸診療所

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度臨床研修協力施設です。 ・研修に必要なインターネット環境があります。
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は確保に向け検討しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を開催し専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	
指導責任者	角藤　裕 【内科専攻医へのメッセージ】 瀬戸診療所は、町内唯一の有床診療所であり愛媛県立中央病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を図ります。
指導医数（常勤医）	
外来・入院患者数	外来患者37名（1日当たり平均）　入院患者7.3名（1日当たり平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	

松野町国民健康保険中央診療所

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度臨床研修協力施設です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレス（ハラスメント含む）に適切に対処する部署（総務課人事担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・当診療所から、1Km圏内に保育園・子育て支援センター（虹の森まつの保育園内）があります。
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は2名（非常勤）在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2024年度実績7回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、膠原病についての研修可能性は低いが、感染症及び救急については定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	
指導責任者	羽生田　雄介 【内科専攻医へのメッセージ】 　当診療所は、人口約 3,500 人、高齢者率 47%の松野町内唯一の医療機関として、併設された保健センター（地域包括支援センター含む）等関係機関と連携し、医療・保健・福祉・介護を含めた地域包括ケアの一役を担っています。そのため、急性期、慢性期、予防、健康増進、緩和ケアなどの包括的なケアと病診連携・診診連携について理解し実践できます。又、嘱託医・協力医・学校医としての活動など、地域保健・医療研修をする上で，診療所の医師の役割を学ぶことのできる施設であり、愛媛県立中央病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として総合内科の専門研修を行い、地域医療を実践できる内科専門医の育成を行います。
指導医数（常勤医）	0名
外来・入院患者数	外来患者52.6名（2024年度1日平均）　入院患者6.7名（2024年度1日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・診診連携が経験できます。又、医療・保健・福祉・介護の円滑で効果的な連携を経験することができます。
学会認定施設 （内科系）	非該当

愛南町国保一本松病院附属内海診療所

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度臨床研修協力施設です。 ・研修に必要なインターネット環境があります。 ・メンタルストレス（ハラスメント含む）に適切に対処する部署（事務局担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、診療所敷地内に医師住宅が整備されています。 ・当診療所から、1km圏内に保育所・小学校・公民館があります。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器・循環器・内分泌・代謝・腎臓・呼吸器・血液・神経・アレルギー・膠原病・感染症及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診察しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	
指導責任者	所長・宮本　裕介 【内科専攻医へのメッセージ】 　内海診療所は、愛媛県立中央病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。当診療所は、小児から高齢者まで幅広い患者層を持ち、保育所嘱託医や学校医活動にも積極的に取り組んでいます。町における公的診療所として外来・救急・在宅診療を中心に、多くの町民にとって唯一のかかりつけ医療機関としての機能を果たしています。毎週2箇所の出張所で外来診療を実施し、地域医療に努めています。また、特別養護老人ホームの嘱託医の職責も果たし、週1回訪問診療を行っています。

指導医数 （常勤医）	
外来・入院患者数	外来患者　308 名（1ヶ月平均）　入院施設　無し
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	

内科専門研修 修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」）一覧表

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ（高齢者）		1	
	総合内科Ⅲ（腫瘍）		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 （外来は最大12）	56 疾患群 （任意選択含む）	29 （外来は最大7）

補足

1. 目標設定と修了要件
   以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

	症例	疾患群	病歴要約
目標（研修終了時）	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医2年修了時 目安	80	45	20
専攻医1年修了時 目安	40	20	10

2. 疾患群：修了要件に示した領域の合計数は41疾患群であるが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
3. 病歴要約：病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。
4. 各領域について
   ① 総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科（腫瘍）」の異なる領域から1例ずつ計2例提出する。
   ② 消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
   ③ 内分泌と代謝：それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
   例）「内分泌」2例＋「代謝」1例、「内分泌」1例＋「代謝」2例
5. 臨床研修時の症例について：例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大60症例を上限とし、病歴要約への適用については最大14症例を上限とする。

愛媛県立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会

（令和 8 年 4 月現在）

玉木　みずね　（プログラム統括責任者、委員長、総合内科分野責任者）

名和　由一郎（副委員長、血液分野責任者）

二宮　朋之（消化器分野責任者）

岡山　英樹　（循環器分野責任者）

戎井　理　　（内分泌・代謝分野責任者）

岡本　憲省　（神経内科分野責任者）

井上　考司　（呼吸器分野責任者）

村上　太一　（腎臓分野責任者）

本間　義人　（感染症分野責任者）

松本　守隆　（事務局）

連携施設研修委員長

愛媛県立今治病院	川上　秀生
愛媛県立南宇和病院	村上　晃司
愛媛県立新居浜病院	芝田　直純
愛媛大学医学部附属病院	髙田　康徳
徳島大学病院	和泉　唯信
高知大学医学附属病院	平野　世紀
長崎大学病院	前村　浩二
大阪医科薬科大学病院	今川　彰久
四国がんセンター	吉田　功
愛媛医療センター	伊東　亮治
市立八幡浜総合病院	酒井　武則
西予市立西予市民病院	菊池　良夫
高知医療センター	岡本　宣人
近森病院	川井　和哉
徳島赤十字病院	細川　忍
国立循環器病センター	野口　輝夫
堺市立総合医療センター	西田　幸司
市立池田病院	石田　永
守口敬仁会病院	川上　研
姫路赤十字病院	筑木　隆雄
沖縄県立中部病院	須藤　航
西予市立野村診療所	大塚　伸之
国民健康保険久万高原町立病院	松木　克之
鬼北町立北宇和病院	矢野　聡
伊方町国民健康保険瀬戸診療所	角藤　裕
松野町立国民健康保険中央診療所	羽生田　雄介
愛南町国保一本松病院付属内海診療所	宮本　裕介